



園庭のこいのぼりを見上げて「あっ、こいのぼりだ！」の声に、「まだこいのぼりを知っている子どもがいる」と、嬉しく思いました。この子どもたちの声に、ひと昔もふた昔も前ですが、大きなお宅には何匹もの鯉が泳いでいたことの懐かしさと、時代の移り変わりを感じました。

さて、その時代も大きな節目を迎え、今月から平成から令和になりました。子どもたちにとってより良い世の中になることを期待したいと思います。

5月予定

- 15日(水)衛生消耗費、教育充実費集金・内科検診
- 29日(水)時間外保育料集金・誕生会
- 31日(金)避難訓練

駐車場利用について

天候や時間帯によって玄関前駐車場は大変込み合います。お子さんをお引き取りになりましたら速やかにお帰り頂けますようご協力お願いいたします。

保育参加

5月から2月までお受けいたします。食材の発注がございましたので、1週間前までにお知らせください。

1日4食までの提供です。ご協力お願いいたします。



第一反抗期の「やだ」



子どもには、何から何まで「やだやだ」ということを聞かなくなる時期があります。一歳二カ月過ぎから二歳くらいまでの子どもは、小さな反抗期を繰り返すものです。おむつを替えようとすると逃げ回る、着替えも「いや」、ご飯も「これきらい、これ食べない」、手をつなげば振り払う、何かといえば「いや！」。歩いたりしゃべったりできるようになって可愛いと思っていたらこの調子ですから、お母さんは振り回されてしまうのですが、この時期の子どもは、自分と他者の違いに気づいて、自分の力を試しているのです。お母さんの言った内容がいやだというよりも、「いや」と言ったらどうなるか、何でもかんでも「いや」と言ってみているといえるでしょう。

おむつ替えや着替えのとき、逃げるのを追いかけるとますます逃げ回るようになりますが、「じゃあ、いいよ」とお母さんが別の仕事を始めると、自分のほうから寄ってくる人が多いもの。お母さんの反応を見て行動しているのです。

時間の余裕があるときや、どの服を着るかなどどちらでも大差のないことに関しては子どもの好きなようにさせるけれども、急いで出かけなければならないときや、人を傷つけたり食べ物を粗末にしたりといった、許すわけにいかないことに関しては、子どもが泣いても暴れても親の考えで押し通す(もちろん、穏やかに言う通りしてくれればそれに越したことはないのですが)が必要になります。そうするなかで、子どもに「自分にも力はあるけれど、何でも思い通りにできるわけではないんだ」ということを理解させていくと、言葉でのやりとりができるようになる頃には、むやみやたらとわがままな自己主張をすることは少なくなっていくものです。

このように、一、二歳児の「やだやだ」は、多かれ少なかれ誰にもあるといってよいのですが、問題は言葉で自己主張できる年齢になっても、いつでも何でも「言うことをきかない子」の場合です。



ちゃんと「話のきける子」に言うことをきく・きかない」は親次第
田中喜美子 PHP 特別書籍より抜粋